

平成21年度第1回企画展

みやしるまけまけ

~写真でめぐる宮代の歴史と文化財~

企画展の開催にあたって

新緑の鮮やかさとともに、さわやかな風が心地よい季節になってまいりました。

健康づくりを兼ね、ウォーキングを楽しまれる方が増えているようですが、これからの季節は、花の香りや青々とした木々の緑を楽しみに歩かれる方も多いことでしょう。また、日頃は車や電車などの移動が多い方も、歩くことにより新たな出会いや発見の機会があるかも知れません。

何かを目的に歩く場合の道しるべの一つとして、テーマに沿った情報や地図を希望される方々から、相談や要望が寄せられることがあります。このような声に応えるべく、平成16年度に企画展「宮代再発見写真でめぐる文化財展」を開催、私たちの身のまわりにある文化財を地図と写真を中心に紹介しご好評をいただきました。

今回の展示では、前回の展示をさらに発展させ、「歩いてめぐる」をキーワードに、 車での移動では通り過ぎてしまうような、道の片隅や少々奥まったところにある文化財 や歴史的事象を中心に、宮代町域を紹介いたします。

この展示を参考にしていただき、実際に町域を歩いていただくことにより、私たちの郷土・宮代に新たな発見をされ、より一層の理解と愛着を深めていただければ幸いです。

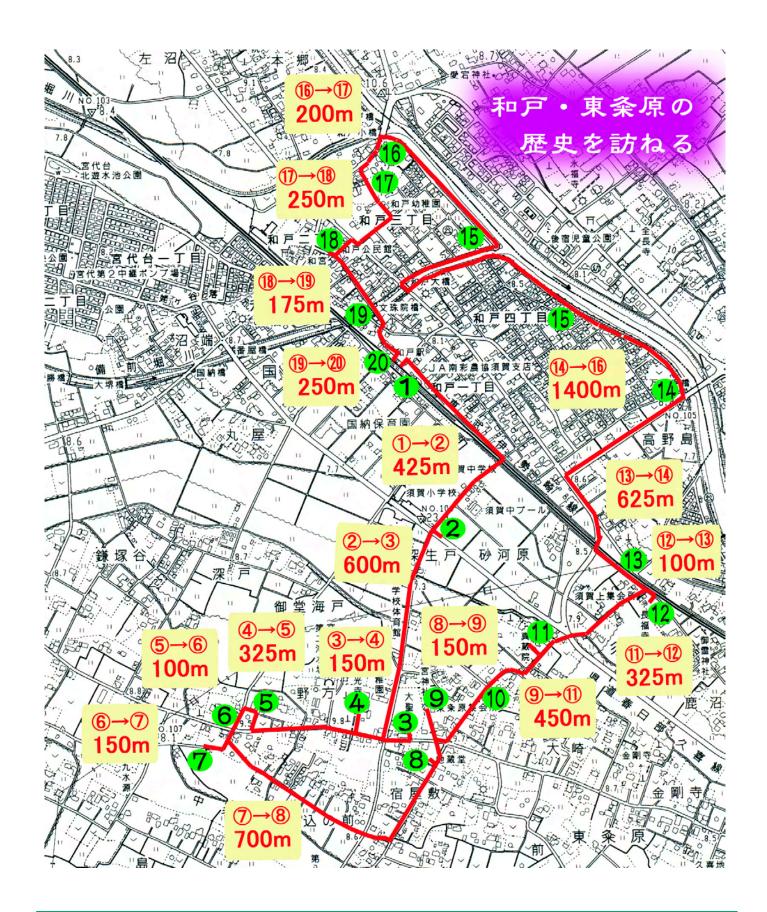
平成21年4月 宮代町郷土資料館

=凡 例=

- 1. 本書は、平成 21 年 4 月 25 日から 7 月 12 日まで開催される、宮代町郷土資料館 平成 21 年度第 1 回企画展「みやしる 歩け歩け!~写真でめぐる宮代の歴史と文化財~」の展示図録です。
- 2. 展示の企画及びポスター・図録の執筆、デザイン、編集は、当館学芸員横内美穂が担当しました。また、掲載した写真は、 一部を除き、当館学芸員が撮影いたしました。
- 3. 今回の企画展の開催にあたり、使用した書籍は下記のとおりです。
- ◇宮代町史資料第3集「社寺総合調査I」 ◇宮代町史資料第7集「宮代の遺跡」
- ◇宮代町史資料第8集「社寺総合調査 II」 ◇宮代町史資料第11集「社寺総合調査 III」
- ◇宮代町史資料第 15 集「社寺総合調査 IV」◇宮代町史資料第 17 集「社寺総合調査 V・路傍調査」
- ◇宮代町史通史編 ◇宮代町史民俗編 ◇宮代町史ビジュアル版「水と緑の宮代」
- 4. 本企画展で紹介したコースは、展示構成の上での一例に過ぎません。また、コース に付されている距離数は、地図上で 測ったおおよその距離となっております。5m 単 位で表示をしていることもあり、実際の距離とは誤差がありますことを ご了承下さい。
- 5. 本企画展の開催にあたり、次の方々にご協力いただきました。厚く御礼申上げます。(敬称略・五十音順)

愛宕神社、医王院、宇宮神社、折原静佑、金原稲荷神社、観音寺、庚申神社、国納雷電神社、五社神社、金剛寺、西光院、西方院、桜稲荷社、地蔵院、地蔵堂、青林寺、浄林寺、青蓮院、神外坊、真蔵院、神明神社、大聖院、辰新田浅間神社、知久勇、長福寺、天神社、道仏稲荷神社、日本工業大学工業技術博物館、女体宮、蓮谷稲荷神社、東粂原鷲宮神社、姫宮神社、弁天会館、宝光寺、宝生院、弥勒院、矢部豊、山崎浅間神社、若宮八幡社、和戸キリスト教会、和戸浅間神社

6. 本企画展で掲載した情報の中には、道路や個人の所有地など、住民の方の生活空間が多く含まれております。このパンフレットをご覧になり各地を見学される際には、お住まいになっている方に迷惑がかからないよう、十分な配慮をお願いいたします。



1. 和戸・東粂原の歴史を訪ねる

総距離数約 6.4km のコースです。和戸駅に始まり和戸駅に終わる、20 カ所をつなぐコースとなっています。20 カ所のうち、文化財案内板があるのは宝光寺、矢部造酒之丞寿蔵碑、東粂原鷲宮神社、真蔵院、長福寺、和戸キリスト教会、旧・須賀村役場跡の7カ所です。

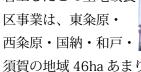
①和戸駅

東武鉄道北千住・久喜間は明治 32 年 (1899)8 月に 開業しましたが、このときはまだ和戸駅は開設されて いませんでした。 開業から 4ヶ月後の同年 12月、新田・ 蒲生・武里・和戸の4駅が開設されました。

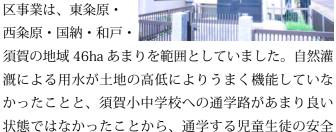
当時の和戸駅は現在の場所よりも久喜よりで、ちょ うど日光御成道と線路が交差するあたりにありました。 単線で、客車と貨物車の連なる汽車が走っていたよう です。東武日光線がなかった当時は幸手方面の人々に も利用されました。貨物の取扱いがあったことから設 立当時の場所では手狭となってしまったため、大正8 年(1919)に現在の所に新しい駅舎が造られ、これに伴 い駅前に新道が造られました。

②土地改良区記念碑 昭和 39 年 12 月に 着工したこの土地改良

区事業は、東粂原・



を図ることもその目的の一つでした。



③大聖院

新義真言宗智山派のお寺で、かつては西光院の末寺 でした。明王山と称し、本尊は不動明王を祀ります。 安永年間 (1772~1781) ごろから青林寺の隠居寺に なったことが知られています。また、明治6年に東粂原、 西粂原、須賀、国納の一部を学区とする西條学校が置 かれた際には校舎の一部として使用されました。その 時の建物は、移築され、最近まで現存していました。

新四国八十八ヶ所の第70番札所であり、ご詠歌は「は やミさき まうせのふねのかぢまくら うきしつむよを よそにゆめミて」です。

④宝光寺

曹洞宗のお寺で、かつては白岡町にある興善寺の末 寺でした。慈眼山と称し、本尊には地蔵菩薩を祀ります。 一説には天文元年(1532)に創立されたとされます。

歴代の住持の中の円宅という人に関係する筆子塔が あり、寺子屋を開いていた事がわかります。

⑤矢部造酒之丞寿蔵碑

江戸時代の終わり頃から明治 初期にかけて、村の有識者によ り多くの寺子屋や塾がつくられ 庶民教育の場となっていました が、この石碑も明治初年に漢学 塾である「寧倹義塾」を創設し た矢部造酒之丞の事績を記した ものです。



矢部造酒之丞は、嘉永5年(1852)に西粂原に生まれ ました。明治初年(1868)、弱冠 17 歳でこの地に寧倹 義塾を創設し、儒学を学ぶ者に経史を教えました。明 治6年(1873)に学制が頒布され村内に西條学校が置か れると閉塾し、西條学校において教師となりました。

この寿蔵碑は、造酒之丞が古希 (70歳)を迎えた大 正 10年 (1921) に門人生により建立されました。この 寿蔵碑が建立された翌々年の大正 12 年 (1923) に 72 歳で没しました。

⑥庚申塔

宝暦 4年 (1754)10月15日 の年号をもつこの庚申塔は、 道路の際に建っています。台 石には、造立にかかわった人 々の名が刻まれています。



⑦道しるべ

正面に「道六神」とあるこの石造物は、嘉永7年 (1854) の年号を持ち、道しるべとしても機能しています。向かって右側に「西方しのす一里たかゆわ十八丁道」とあり、左側には「東方杉戸八丁道」とあります。前の通りを西に進んだところにも道しるべがあることから、古い道筋ではないかと推定されます。



⑧地蔵堂

本尊は郷地蔵といい、子育て地蔵とも称されています。

縁日は 7 月 24 日で、この祭礼は地蔵様の灯籠と呼ばれています。堂の前の道路の両方向に絵を描いた紙を貼った灯籠が $20\sim30$ 個ほどが等間隔に設置され、現在では同時に地域のお祭りも行なわれています。

このとき、堂内ではろうそくがたくさん立てられ、できる限り短くなるまで火がともされます。短くなったろうそくは火が消されたのちに半紙に包まれ、安産のお守りとして参拝者に配られます。お産の時にこのろうそくに火をともすと、燃え尽きるまでに出産できるとされました。赤ちゃんが無事に生まれると、翌年の縁日の際に再び参拝をし、無事に生まれたお礼を告げるそうです。

⑨東粂原鷲宮神社

東条原村の鎮守です。当地は「宿屋敷」と呼ばれ、鎌倉古道の伝承が残っています。土地の人々には「わしっさま」「おわしさま」と称され、祭神は天穂日命を祀っています。延享2年(1745)ごろが起源とされる、町指定無形民俗文化財の獅子舞が伝わっています。男獅子・中獅子・女獅子からなる3頭の獅子と天狗、ひょっとこ、花笠、太鼓、笛などにより上演・奉納されます。優雅な笛の音にあわせて舞われる獅子舞は、新田開発がに伴い土地の神々の怒りを鎮めるために習い奉納したことが始まりとされています。毎年7月16日近くの日曜日に奉納されます。い駅前に新道が造られました。

⑩伝・鎌倉街道

鎌倉時代、武士たちが当時幕府の置かれていた鎌倉まで馳せ参じる際の街道を「鎌倉街道」と呼んでいますが、埼玉県内には上道・中道などあわせ概ね5つの道筋が知られています。

宮代町域にも鎌倉街道と呼ばれる道筋があり、それは別名「奥州路」と呼ばれる鎌倉街道中道です。川口→鳩ヶ谷→岩槻→高岩→久米原→須賀→下高野→幸手→古河へと続く道筋であり、後の日光御成道とほぼ同じ道筋となります。「市場之祭文」と呼ばれる中世の古文書からは、久米原と須賀に市が立っていたことがわかりますが、いずれも鎌倉街道沿いに位置していたと考えられています。当時のにぎわいが思い浮かびます

⑪真蔵院

新義真言宗のお寺で、かつての本寺は幸手市内国府間の正福寺でした。医王山大福寺と称し、本尊に不動明王を祀ります。

前の道は鎌倉街道であるという伝承があり、「市場祭 文」と呼ばれる中世の古文書に記された「須賀市」は この真蔵院の門前で開かれた市であったとされていま す。

入口の仁王門にかかげられている額の書は、江戸時代中期の書家・三井親和によるものです。また、岩槻藩の私塾である遷喬館の創設者である児玉南村は、粕壁、杉戸、和戸,須賀の人々と交流があったことが知られていますが、彼の書いた日記にも、和戸や須賀に関する記述が多く見られます。

新四国八十八ヶ所の第71番札所であり、ご詠歌は「ほとけにハちかくしるしのあればこそただありがたやけるのわかかけ」です。

迎長福寺

曹洞宗の寺で、かつては白岡町の興善寺の末寺でした。山号は桃源山と称し、本尊は正観音を祀ります。

一説には江戸時代の明和元年 (1764)9 月の創建であると伝わっています。以前の本堂は、近くの蚕室になっていた建物を昭和 16 年に移築したものでしたが、平成4年に現在の本堂が新たに建てられました。本堂裏手の歴代住職の墓石群の中には、寺の創立以前の宝篋印塔があります。また、境内には二十八貫目と刻まれた力石も置かれています。

③東武鉄道煉瓦橋台

明治31年(1898)に東武鉄道の工事が始まった時に、河川や用水に掛けられた鉄道橋の橋台や橋脚には煉瓦が多く使われました。宮代町域においても、姫宮落川や笠原沼落川、あるいは備前堀川や備前前掘川などに掛けられた鉄道橋の橋台には煉瓦が使われました。線路を含めた鉄道橋そのものは改修されていますが、橋台は改修されていないようなので、現在でも見ることができます。煉瓦橋台は、町域に全部で5カ所あります。

⑭万願寺橋・高野の渡し

神奈川県にある称名寺にのこされた古文書の一つに「関東御教書」があります。これは、称名寺に対して高野川(古利根川の高野付近の別称)の橋の権利を先例通り認める内容で、称名寺が古利根川左岸の下河辺荘の領主であったことに由来する古文書です。高野川の橋は、鎌倉街道中道が通っていたことから、交通の要所であったと思われます。現在、万願寺橋がかかっているやや上流に高野の橋があったと伝わっています。

⑤健康マッ歩 古利根川コース

和戸・須賀地区の古利根川沿いを歩くコースの一部です。四季折々の景色を楽しむことのできるコースになっています。



16和戸橋

日光御成道が古利根川を渡るための橋です。橋を渡った杉戸町側には、大正8年(1919)から昭和9年までの16年間をかけて行なわれた大落古利根川の改修に関する記念碑が建っています。

昭和初期に撮影された写真がのこされています。



⑰和戸キリスト教会

明治11年(1878)10月26日、埼玉県内で最初のキリスト教会として誕生した和戸教会は、信徒13名をもって創設されました。創設者の一人である小島九右衛門は、養蚕業の関係で横浜に出向き、ローマ字などで有名なヘボン博士と出会ったことがきっかけとなりキリスト教の教えを受けるようになりました。明治8年(1875)にゼームス・バラより洗礼を受けました。同郷の大工・小菅幸之助も同時期に横浜で受洗しました。

小菅幸之助は横浜にあるフェリス女学校の寄宿校舎 (関東大震災の際に焼失)や、群馬県沼田市にある沼田 教会会堂 (現存・現:関口コオ切り絵美術館)などをは じめ、いくつかの洋風建築物の建設にかかわっていた ことが知られています。

®旧·須賀村役場跡

須賀村役場は明治 22 年 (1889)、和戸・須賀・東粂原・西粂原・国納の五カ村が合併した際に、西粂原の宝光寺に置かれました。明治 44 年、現在の須賀小中学校の近くに庁舎が新築されましたが、立地上に問題が生じたため、大正 3 年 (1914) に大字和戸 (現在の和戸公民館の場所)に新築移転しました。木造二階建てで事務室は 1 階のみであったそうです。昭和 30 年 7 月、須賀村と百間村が合併し宮代町が誕生した後は須賀支所として使用されていましたが、役場庁舎の新築に伴い昭和 36 年に須賀支所は廃止になりました。

現在の和戸公民館は昭和41年に建設され、その後昭和54年に二階建てに改築、さらに平成13年に耐震補強改修工事が行なわれ、生涯学習の拠点として活用されています。

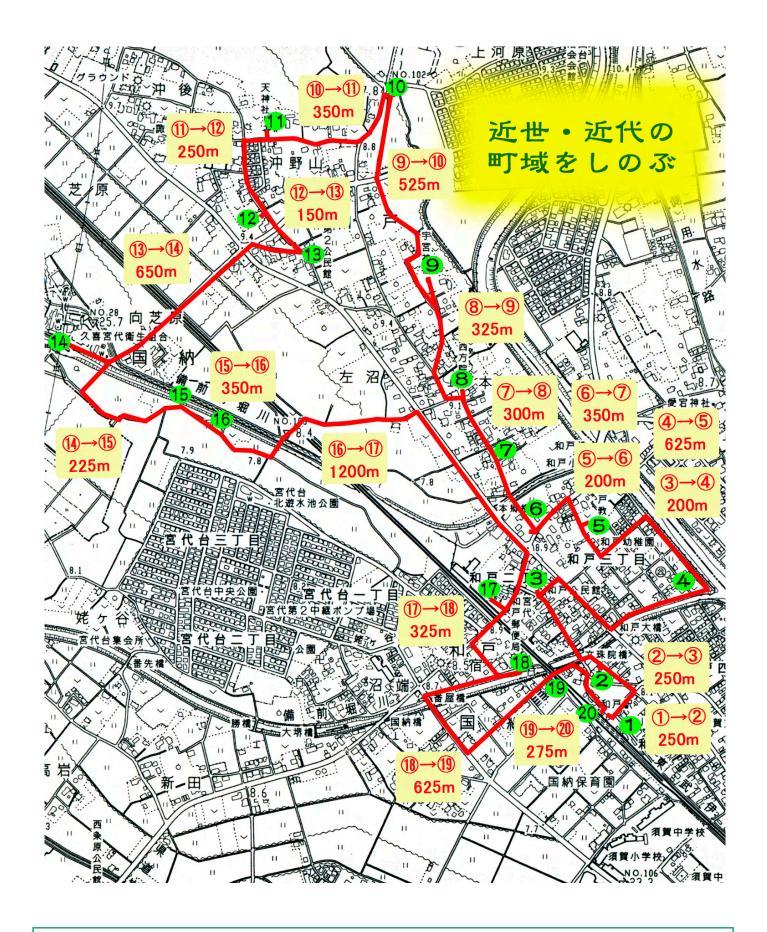


19文殊院橋

この橋の名は、文殊院がこの地にあったことから名 付けられました。

文殊院とは修験の寺として知られている、春日部市 小渕にあった幸手不動院の配下の寺でした。墓地があ る所から見て備前堀川の反対側に本堂があったといわ れています。

20和戸駅



2. 近世・近代の町域をしのぶ

総距離数約 7.4km のコースです。和戸駅に始まり和戸駅に終わる、20 カ所をつなぐコースとなっています。20 カ所のうち、文化財案内板があるのは旧・須賀村役場跡、和戸キリスト教会、西方院、宇宮神社、万年堰、和戸浅間神社、国納雷電神社の 7 カ所です。

①和戸駅

(コース No.1 の掲載文参照)

②文殊院橋

(コース No.1 の掲載文参照)

③旧·須賀村役場跡

(コース No.1 の掲載文参照)

④備前堀川 (健康マッ歩桜堤コースの一部)

春になると一面に菜の花が咲き、鮮やかな景色を楽 しむことができるコースです。

⑤和戸キリスト教会

明治 11 年 (1878)10 月 26 日、埼玉県内で最初のキリスト教会として誕生した和戸教会は、信徒 13 名をもって創設されました。創設者の一人である小島九右衛門は、養蚕業の関係で横浜に出向き、ローマ字などで有名なヘボン博士と出会ったことがきっかけとなりキリスト教の教えを受けるようになりました。明治 8年 (1875) にゼームス・バラより洗礼を受けました。同郷の大工・小菅幸之助も同時期に横浜で受洗しました。

小菅幸之助は横浜にあるフェリス女学校の寄宿校舎 (関東大震災の際に焼失)や、群馬県沼田市にある沼田 教会会堂 (現存・現:関口コオ切り絵美術館)などをは じめ、いくつかの洋風建築物の建設にかかわっていた ことが知られています。

⑥和戸キリスト教会

初代建物建設地

写真は、和戸教会の初代教会堂です。明治 15 年 (1882) に建てられたこの教会堂は、設立者の一人である小島九右衛門の自邸内に建てられました。建設したのは同じく創設者の一人であった大工の小



菅幸之助でした。写真右手に小さなシュロの木が写っていますが、近年までそのシュロの木が残っていました。現在、コンビニエンスストアの看板の柱が建っているあたりにそのシュロの木がありました。

現在の教会堂は東奥に少し入ったところにあり、三 代目の教会堂になっています。

⑦旧•久喜道

和戸教会の初代建物のあった場所の脇にあり、日光 御成道(現・県道岩槻幸手線)から西方院へと伸びる



細い道は、かつて久喜へと向かう通りでした。西方院 の境内入口にある道しるべにその面影を残しています。

⑧西方院

新義真言宗智山派のお寺で、岩舟山と号し、本尊に 阿弥陀如来を祀ります。寺伝によれば、寛仁元年 (1017) に法印辛秀が創立したと伝えます。

当寺には町指定文化財でもある十一面観音菩薩立像があります。かつては西方院の末寺であった観音寺の本尊でしたが、明治になり廃寺となったため当寺に移されました。25年に一度開帳される秘仏で、古くから子どもの無事成長と学問成就の守りである子育て観音として知られています。

⑨宇宮神社

江戸時代の和戸村の鎮守で、創建については明らかではなく、文明 16 年 (1484) に再建されたと伝わる古い社です。祭神は天穂日命ほか三柱を祀ります。神社を管理していた別当寺は本山修験の寺で宇宮山宮本寺とも称されていた本覚院でした。

西方院から続く久喜道沿いにあり、古くから開けて いた場所であることがうかがえます。

⑩道しるべ

天明 5 年 (1785) の年号 をもつこの石造物は、観音 菩薩像が浮彫りにされてお り、その右側側面には「右



わしのみや道」と、また左側側面には「左 くき道」と 刻まれています。

自然堤防上に建っているこの道しるべの近くからは、 板石塔婆の破片が見つかったこともありました。

⑪天神社

江戸時代は和戸村内にあった修験の寺である本覚院 の管理下にありました。祭神には菅原道真を祀ります。 昭和 56 年に拝殿などの修理が行なわれました。

⑫道しるべ

天保 4 年 (1833)4 月の年号を持つこの石造物は、馬 頭観世音を祀るものですが道しるべとしても機能して います。右側側面に「くきミち きさい道」とあり、左 側側面に「すぎと かすかべミち」と刻まれています。



13庚申塔

表面が削り取られたかのようになっているためわかりにくい石造物ですが、文化13年(1816)の年号が見



受けられる庚申 塔です。台石に 和戸沖の山の 方々でしょうか、 多くの人の名が 刻まれています。

4)万年堰

和戸・国納地区への用水確保のために設けられた木造の堰でしたが、腐朽が早く修理が大変であったことから、明治35年(1902)に煉瓦造りの堰が建設されました。川上側は御影石、川下側を煉瓦で造ったこの堰は、非常に近代的な堰として親しまれましたが、昭和54年(1979)に現在の堰を構築する際に取り払われ、表面の御影石の一部が現在も残る万年堰碑の台石として使用されました。

15備前前堀川

万年堰から愛宕神社に向かって流れているのが備前 前堀川です。愛宕神社までは川の土手を歩いていきま す。少々足場が悪いので、注意してお進み下さい。



16愛宕神社

江戸時代には同じ和戸村内にあった西方院の管理下にありました。祭神には軻過突智命を祀ります。社殿は階段を上る、富士塚を連想させるような小高い場所に位置しています。

①和戸浅間神社

創建は明らかではありませんが、元々は個人持ちの社であったものを文化14年(1817)に富士講の人々の管理下においたものと伝わります。明治32年(1899)、東武鉄道の敷地になったため、現在の場所に移転しました。祭神は木花咲耶姫命を祀ります。

一般的に7月1日に行なわれる初山の行事が、前日の6月30日に行なわれることから、「ウラ浅間」と呼ばれています。子どもの成長を願う家族が多く参拝し、にぎわいを見せます。

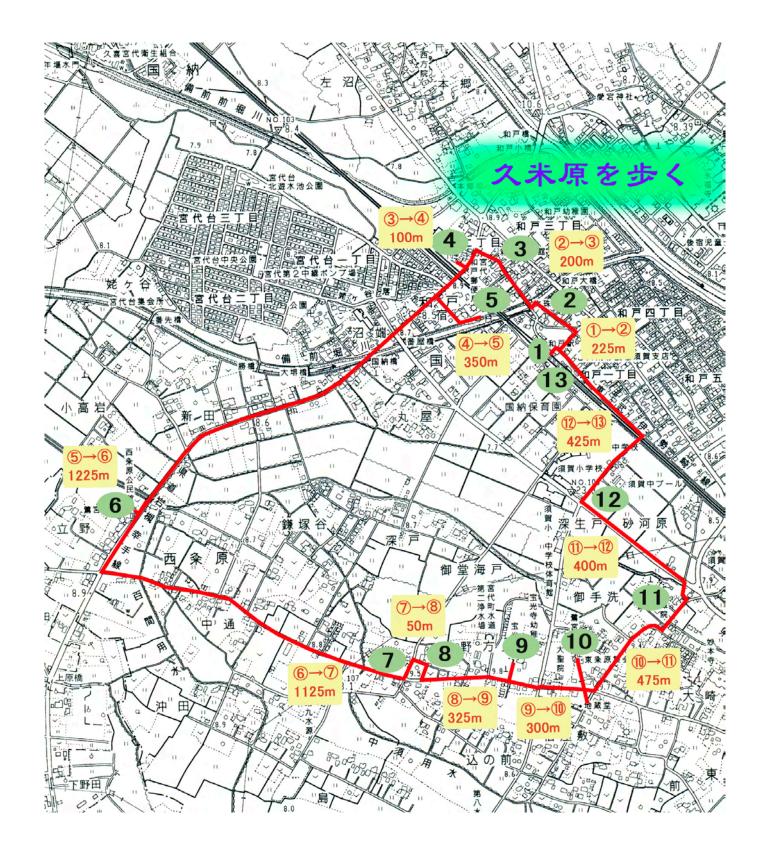
18国納雷電神社

土地の人々に「板倉様」とも称されている雷電神社は、かつては国納村の鎮守でした。別雷命を主祭神に、菅原道真公、猿田彦命が祀られています。境内にある力石は、すぐ脇を流れている備前堀川から近年引き上げられたものです。

⑩東武鉄道煉瓦橋台

明治31年(1898)に東武鉄道の工事が始まった時に、河川や用水に掛けられた鉄道橋の橋台や橋脚には煉瓦が多く使われました。宮代町域においても、姫宮落川や笠原沼落川、あるいは備前堀川や備前前掘川などに掛けられた鉄道橋の橋台には煉瓦が使われました。線路を含めた鉄道橋そのものは改修されていますが、橋台は改修されていないようなので、現在でも見ることができます。煉瓦橋台は、町域に全部で5カ所あります。

20和戸駅



3. 久米原を歩く

総距離数約 5.2km のコースです。和戸駅に始まり和戸駅に終わる、13 カ所をつなぐコースとなっています。13 カ所のうち、文化財案内板があるのは旧・須賀村役場跡、和戸浅間神社、和戸キリスト教会、国納雷電神社、西粂原鷲宮神社、矢部造酒之丞寿蔵碑、宝光寺、東粂原鷲宮神社、真蔵院の 9 カ所です。

①和戸駅

東武鉄道北千住・久喜間は明治32年(1899)8月に 開業しましたが、このときはまだ和戸駅は開設されて いませんでした。開業から4ヶ月後の同年12月、新田・ 蒲生・武里・和戸の4駅が開設されました。

当時の和戸駅は現在の場所よりも久喜よりで、ちょうど日光御成道と線路が交差するあたりにありました。単線で、客車と貨物車の連なる汽車が走っていたようです。東武日光線がなかった当時は幸手方面の人々にも利用されました。貨物の取扱いがあったことから設立当時の場所では手狭となってしまったため、大正8年(1919)に現在の所に新しい駅舎が造られ、これに伴い駅前に新道が造られました。

②文殊院橋

この橋の名は、文殊院がこの地にあったことから名 付けられました。

文殊院とは修験の寺として知られている、春日部市 小渕にあった幸手不動院の配下の寺でした。墓地があ る所から見て備前堀川の反対側に本堂があったといわ れています。

③旧•須賀村役場跡

(コース No.1 の掲載文参照)



④和戸浅間神社

創建は明らかではありませんが、元々は個人持ちの社であったものを文化 14年 (1817) に富士講の人々の管理下においたものと伝わります。明治 32年 (1899)、東武鉄道の敷地になったため、現在の場所に移転しました。祭神は木花咲耶姫命を祀ります。

一般的に7月1日に行なわれる初山の行事が、前日の6月30日に行なわれることから、「ウラ浅間」と呼ばれています。子どもの成長を願う家族が多く参拝し、にぎわいを見せます。

⑤国納雷電神社

(コース No.2 の掲載文参照)

⑥西粂原鷲宮神社

西粂原村の鎮守で、祭神は天穂日命と武夷鳥命を祀ります。江戸時代は同村内にあった明智寺の管理下にあった神社です。安永2年(1773)5月の年号が刻まれた石祠に「鷲宮本地釈迦牟尼佛」とあり、明治時代に入り神仏分離が行なわれるまでの、神仏混合の様子をうかがえます。

⑦庚申塔

(コース No.1 の掲載文参照)

⑧矢部造酒之丞寿蔵碑

(コース No.1 の掲載文参照)



⑨宝光寺

曹洞宗のお寺で、かつては白岡町にある興善寺の末 寺でした。慈眼山と称し、本尊には地蔵菩薩を祀ります。 一説には天文元年(1532)に創立されたとされます。

歴代の住持の中の円宅という人に関係する筆子塔があり、寺子屋を開いていた事がわかります。

⑩東粂原鷲宮神社

(コース No.1 の掲載文参照)

⑪真蔵院

(コース No.1 の掲載文参照)

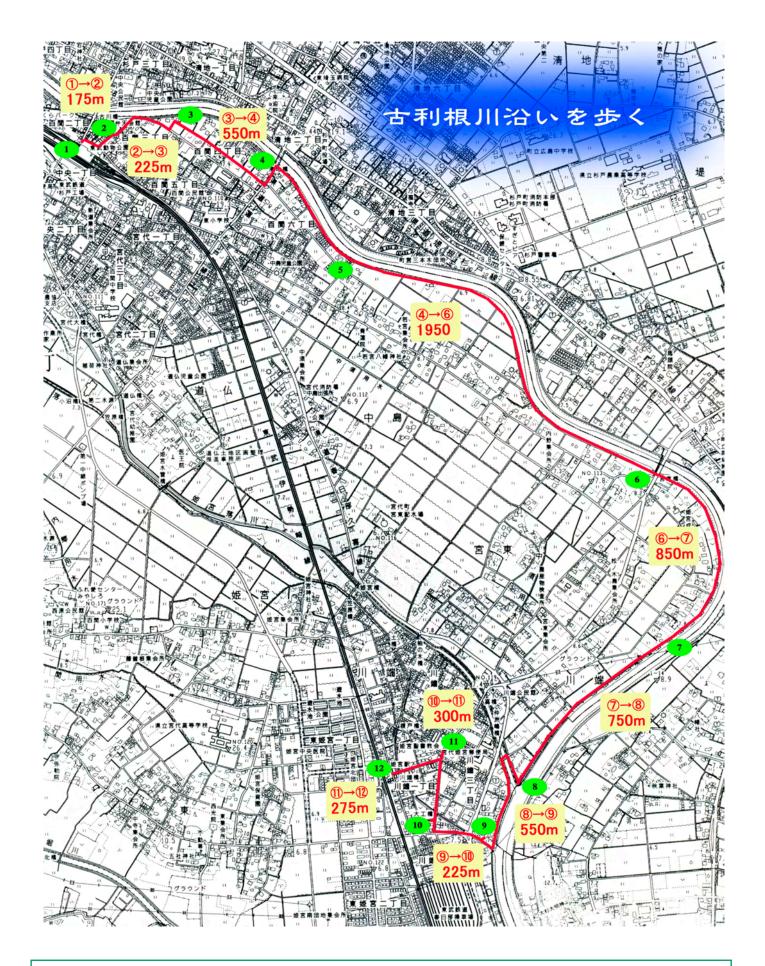
⑫土地改良区記念碑

昭和39年12月に 着工したこの土地改良 区事業は、東粂原・西 粂原・国納・和戸・須



質の地域 46ha あまりを範囲としていました。自然灌漑による用水が土地の高低によりうまく機能していなかったことと、須賀小中学校への通学路があまり良い状態ではなかったことから、通学する児童生徒の安全を図ることもその目的の一つでした。

13和戸駅



4. 古利根川沿いを歩く

総距離数約 5.9km のコースです。東武動物公園駅に始まり姫宮駅に終わる、12 カ所をつなぐコースとなっています。



①東武動物公園駅 (東口)

北千住から久喜の間を第1期工事として明治31年(1898)に着工した東武鉄道は、翌年8月19日に開業しました。開業当時に設置された7駅(北千住・西新井・草加・越ヶ谷・粕壁・杉戸・久喜)の内の一つであったのが杉戸駅、現在の東武動物公園駅です。

現在の駅名に変更されたのは、昭和56年のことで、3月に遊園地と動物園の施設を持つ東武動物公園がオープンしたことから、その名を駅名にしたことによります。同時に西口が開設されました。

東武伊勢崎線と日光線の分岐点でもあり、東口のロータリーからは関宿方面などへのバス路線が伸びているなど、交通の重要な拠点でもあります。

②弁天会館

弁天会館に祀られている弁財天は、その昔は川土手の川側にあったとされています。大正 13年 (1924) の古利根川改修に伴ってその場所から移転され、さらに昭和 5年頃弁財天社が建築されましたが、昭和 45年 焼失、翌年 3 月に現在の弁天会館が落成し現在に至っています。



③桜稲荷神社

伝承によれば、江戸時代の中頃に佐倉藩領が置かれた時期がありましたが、そのとき藩御用達をしていた尾花氏が、佐倉の稲荷神社を分祀したのが始まりとされています。このとき、佐倉の地名を「桜」に代えて社名にしたと伝わります。当時の佐倉藩主である堀田氏は佐倉領内において稲荷信仰と深い関わりがあるとされていることから、藩領となった当地に稲荷神社が分祀されたと推察されます。

もともとは、百間公民館の隣にありましたが、平成 10年6月にこの地に移されました。

④清地橋

江戸時代は土橋が設けられ、杉戸宿の御伝馬道が通っていました。この橋が清地橋です。川の対岸の村が清地村で、その清地村と百間村が組合となって共同管理していたことからこの名がついたとされています。そのため、百間村側の字名をとって「川島橋」とも呼ばれていたようです。

土橋から石橋に架け替えられたのが昭和8年のことで、その時までは現在の場所よりも上流にありました。

現在の橋に架け替えられたのは昭和63年10月のことでした。



⑤健康マッ歩 水辺ふれあいコース

百間6丁目付近から川端地区の笠原沼落・古利根川 合流地点までの約4kmのコースです。途中、古利根川 児童公園とポケットパークの2カ所で休憩できます。

⑥宮東橋・矢島の渡し

昭和 25 年の春に土橋として宮東橋が掛けられるまでは、この地には「矢島の渡し」と呼ばれる渡し場がありました。渡し場の経営を矢島家で行なっていたことからこの名がつけられました。

矢島の渡しは明治・大正期に行なわれていましたが、一日に平均10人ほどの利用者数であったそうですが、終戦後に利用者が増え、一日に100人も渡したこともあったそうです。その利用者のほとんどが、姫宮駅の利用者であったそうです。舟賃は戦前で五銭、戦後は十銭で、運行時刻は定めず朝五時から夜の十時頃まで、矢島家の人が起きている時間帯であれば頼まれれば舟を出していたそうです。

⑦紺屋の渡し

紺屋の渡しは明治期から行なわれていたものと思わ れますが、定かではありません。昭和 26・27 年ごろ まで行なわれていたそうです。藍染めなどの染め物を 行なう紺屋を生業としていた成田家が経営していたこ とから、紺屋の渡しと呼ばれました。一日に平均10人 くらいの人を運んでいたそうですが、矢島の渡しと同 様、終戦後の最盛期には買い出しの人などを大勢渡し たそうです。その利用者の多くが姫宮駅を利用するた めだったようです。運行時刻は定めず、頼まれた時に 舟を出し、その舟賃は戦前で2銭、戦後は5銭であっ たそうです。

⑧ガッタの渡し

江戸時代後期、ガッタの渡しがあったとされる場所 には板橋が掛けられていたことがわかっています。し かし、明治期になると橋がなくなり、代わりに渡し場 が設けられたようです。経営は島村家が行ない、舟賃 二銭、幸手不動院や小渕観音の参拝者が多く利用した そうです。

渡しの名前の由来は、渡しになる前の橋が渡るとき に途中まで進むとガタガタしたため、ガッタラ橋と呼 ばれていたことからであると伝えられています。この 渡しは「フジの渡し」とも呼ばれ、対岸の春日部市側 を「カンスケの渡し」といいました。



宮代町側から撮影



杉戸町側から撮影

⑨水神

ガッタの渡し場の川岸から 100m ほど奥に入った所に、 水神が祀られています。舟の 安全祈願の為に建立されたも ので、かつてはもっと岸に近 い所にあったそうです。



⑩庚申神社

川端地区の鎮守はもともとは五社神社でしたが、昭 和28年3月から、地区内に造立されていた庚申塔を地 域の神様として祀るようになりました。かつてはこの 神社の前でオビシャや甘酒行事などが行なわれていた そうです。

神社の脇には 青面金剛塔、庚 申塔、二十三夜 塔があり、庚申 塔は道しるべと しても造立され



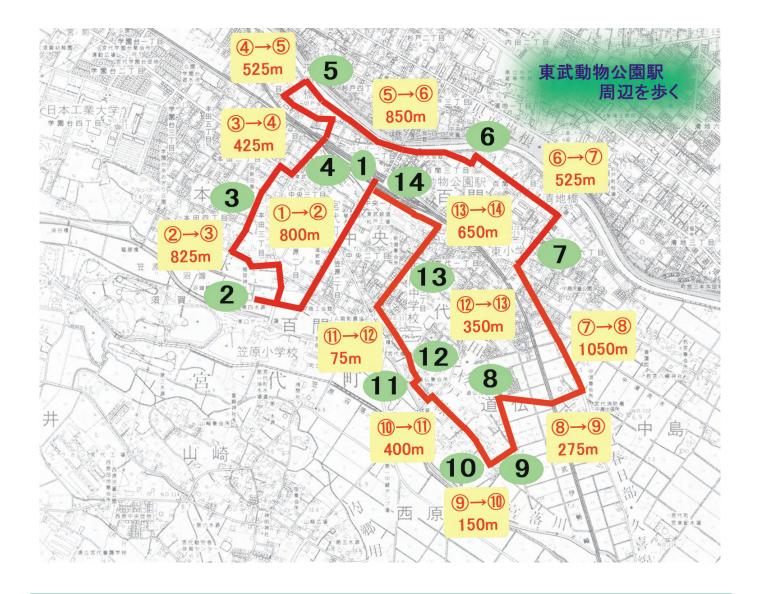
ています。塔の向かって右側に「南かすかべ 西すぎと」 とあり、当時の日光街道の宿場町の名前が記されてい ます。

⑪道しるべ

姫宮郵便局の左側に建っている電柱の足下に、小さ な石造物があることを気づいていた人はあまり多くな いかもしれませんが、ましてそれが道しるべを兼ねた 供養塔であることに気づいていた方は少なかったかも しれません。道路の際にあることから摩耗が激しく、 地名のほとんどを読むことができなくなっていますが、 「南かす(かべ)、西もんまみ(ち)、北久きみ(ち)」の 地名を読み取ることができます。

迎姫宮駅(東口)

姫宮駅は、昭和2年 (1927)9 月に開設されました。 開設当時から近年まで、駅舎は東口だけでしたが、平 成13年3月に橋上化となり、東西からの利用が可能に なりました。



5. 東武動物公園駅周辺を歩く

総距離数約 6.9km のコースです。東武動物公園駅に始まり東武動物公園駅に終わる、14 カ所をつな ぐコースとなっています。14 カ所の内、文化財案内板が設置されているのは、辰新田浅間神社、川島 庚申塔群の2 カ所です。

①東武動物公園駅(西口)

北千住から久喜の間を第1期工事として明治31年(1898)に着工した東武鉄道は、翌年8月19日に開業しました。開業当時に設置された7駅(北千住・西新井・草加・越ヶ谷・粕壁・杉戸・久喜)の内の一つであったのが杉戸駅、現在の東武動物公園駅です。

現在の駅名に変更されたのは、昭和56年のことで、3月に遊園地と動物園の施設を持つ東武動物公園がオープンしたことから、その名を駅名にしたことによります。同時に西口が開設されました。

東武伊勢崎線と日光線の分岐点でもあり、東口のロータリーからは関宿方面などへのバス路線が伸びているなど、交通の重要な拠点でもあります。

②蓮谷稲荷神社

江戸時代の蓮谷村の鎮守です。創建については諸説がありますが、江戸時代の初期に加藤氏が勧請して祀られた点で一致しています。御神体を納めた箱の墨書銘から、明和3年(1766)の年号で「正一位稲荷大明神」が与えられていることがわかります。

境内には、馬頭観音塔をはじめ記念碑や力石など多

くの石造物がのこされています。



③辰新田浅間神社

昭和 49 年に辰新 田集会所と棟続きで 建てられ、現在のよ



うになりました。祭神は木花咲耶姫命を祀り、この辺りでは「センゲンサマ」と呼ばれています。浅間神社の前には、大きな富士塚があり、毎年7月1日には初山が行なわれます。この辺りでは、初山の際に「ミヤマ」と称し、この浅間神社の他に山崎の「赤松浅間社」と、古利根川を渡る河原橋の杉戸側にある「河原の浅間様」の3カ所に参る家があるそうです。



④女体宮

平安時代のこと、 京都の三条家の姫君 が、当地の鈴木家の

若者に嫁ぐため当地に向かって旅をしていたところ、途中で暴漢に襲われました。これを苦にした姫君は、嫁ぎ先である鈴木家に着くと実家から持ってきた家紋入りの器を置き、近くにあった池に身を投じてしまいました。姫君を哀れに思った鈴木家の人たちが姫を弔うために祀ったのがこの女体宮であると伝わっています。

⑤水神

下半分が欠けてしまっており、背面をコンクリートで固定されていることから、造立年代などは不明です。このほか、嘉永6年(1853)の年号を持つ馬頭観世音と明治23年(1890)の年号の記念碑が並んで建っています。



⑥桜稲荷神社

伝承によれば、江戸時代の中頃に佐倉藩領が置かれた時期がありましたが、そのとき藩御用達をしていた尾花氏が、佐倉の稲荷神社を分祀したのが始まりとされています。このとき、佐倉の地名を「桜」に代えて社名にしたと伝わります。当時の佐倉藩主である堀田氏は佐倉領内において稲荷信仰と深い関わりがあるとされていることから、藩領となった当地に稲荷神社が分祀されたと推察されます。

もともとは、百間公民館の隣にありましたが、平成 10年6月にこの地に移されました。

⑦川島庚申塔群

宮代町内でも比較的古い庚申塔群です。庚申塔が5基、常夜塔2基が所在します。町内で最も古い庚申塔が含まれた庚申塔群であり、それは延宝4年(1676)のもので、舟形をしていて、覆屋の中にあります。残り4基の庚申塔の造立年号から推測するに、川島庚申講としての組織が150年間に渡り続き、地区内の全世帯が加入して運営されていた様子がうかがえます。

平成19年4月に町指定文化財になりました。

⑧道仏北遺跡

字道仏に所在する道仏北遺跡は、大宮台地の東側縁辺部に位置し、標高8mほどの舌状台地の先端部付近にあります。現在は宅地、田、畑などになっています。平成15~20年度において数回に渡り調査が行われました。古利根川の右岸に位置することから、氾濫などの影響を受けていたようで、粘性が強くとても硬い土に覆われていました。合わせて32軒の住居跡が確認されましたが、特に縄文時代早期条痕文期の住居跡10軒は付近では数少ない時期のものとして注目されています。

また展示している獣面把手土器は、平成20年度の調査で確認された土器であり、宮代町域では初めて確認されました。

⑨道仏遺跡

字道仏に所在する道仏遺跡は、大宮台地の東側縁辺部に位置し、舌状台地先端部に立地しています。標高は8mほどで、町域でも比較的低い台地に立地し、現在は宅地、畑、屋敷林などになっています。

平成9年度、平成20年度におこなわれた発掘調査では、古墳時代後期の集落が確認されています。同時期の古墳群として、低地をはさんだ南東側に姫宮神社古墳が存在しています。

⑩医王院

新義真言宗智山派のお寺で、かつては西光院の末寺でした。本尊に不動明王を祀ります。一説に、島村出羽守正明により天文年中(1532~1555)に開基され、当時は稲荷山宗祐寺医王院と称し、その後延宝8年(1680)に山号を明王山に改称したと伝わります。

新四国八十八ヶ所の第82番札所であり、ご詠歌は「お

とにきく大師 のとくのいなり やまみねふく かせも ミのり なりけり」です。 境内には、大師 堂も祀られてい ます。





⑪道仏稲荷神社

江戸時代の百間中島村の鎮守です。このあたりは、 天正 18年(1590)に頃島村出羽守宗明が開発し、その頃は道仏村と称していましたが、元禄8年(1695)の百間村分村の時に中島村と改めたと伝わっています。 稲荷神社の創建については元和5年(1619)の勧請と伝えますが、岩崎家文書(町指定文化財)にある「正一位稲荷五社太明神安鎮之事」には、宝暦5年(1755)の鎮座とあります。

境内には多くの石造物があり、道しるべともなっている庚申塔や、寛政 5 年(1793)の年号を持つ力石などがあります。



⑫庚申塔

元禄2年(1689)9月27日の銘を持つ庚申塔です。 同じような形の庚申塔は、東小学校近くの川島庚申塔 群にあります。

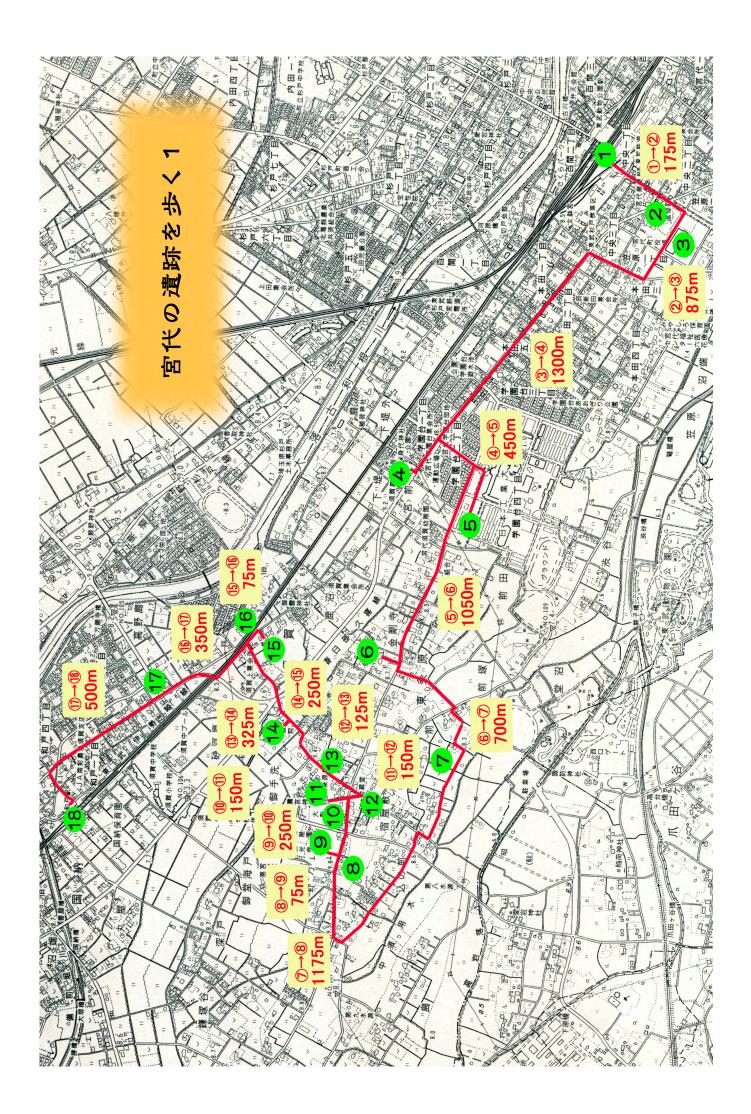


13百間新道

正面に「道六」とあるこの石造物は、嘉永7年 (1854) の年号を持ち、道しるべとしても機能しています。向かって右側に「西方しのす一里たかゆわ十八丁道」とあり、左側には「東方杉戸八丁道」とあります。前の通りを西に進んだところにも道しるべがあることから、古い道筋ではないかと推定されます。



(4)東武動物公園駅(西口)



6. 宮代の遺跡を歩く1

総距離数約 8km のコースです。東武動物公園駅に始まり和戸駅に終わる、18 カ所をつなぐコースとなっています。18 カ所の内、文化財案内板が設置されているのは、身代神社、金剛寺、宝光寺、東粂原鷲宮神社、真蔵院、長福寺の6 カ所です。

①東武動物公園駅(西口)

(コース No.4 の掲載文参照)

②コミュニティセンター進修館

昭和55年6月、町のシンボルともなっているコミュニティセンター進修館がオープンしました。進修館の名称は、百間小学校の前身である「進修学校」の名前にちなんで名付けられました。この年は宮代町町政施行25周年にあたり、ここを拠点にさまざまなイベントもおこなわれました。現在も、町民のコミュニティや町づくりの拠点として多くの方に利用されています。

③宮代町役場庁舎

昭和30年7月30日に宮代町が誕生し、その5年後に現在のコミュニティセンター進修館の中庭のあたりに新庁舎ができてから約45年間、老朽化と狭小な状況が進む一方でしたが、町政施行50周年を迎えた平成17年に、現在の庁舎が完成しました。

この庁舎は「人と自然にやさしい庁舎」「誰もが使いやすいみんなの庁舎」を基本コンセプトに、埼玉県産の木材を豊富に活用した、国内でもあまり見かけない木造建築の庁舎として建てられました。屋根には太陽光

発電設備が取り 付けられ、環境 負荷の少ないエ ネルギーを得る ことができ、南 側の壁面である べき所には一面



にガラス窓が配置され、明るく開放的な雰囲気を持つ、 町民が誇れる庁舎となりました。

④身代神社

須賀村の鎮守で、創建は仁治3年(1242)3月に勧 まされたと伝わり、主祭神には素盞鳴命を祀ります。

伝承として、ある武将が奥州に落ち延びる際に武将 の姫が追っ手に捕えられそうになり、そのとき、村人 がコノシロという魚を焼いた。この魚は焼いた時の匂 いが人を焼いた時と同じであるといわれ、追っ手に対 して「姫は死んでしまった」ことにし、救うためであった。無事に追っ手から逃げることのできた姫はたいそう感謝をし、コノシロにちなんで身代神社を祀ったという話が伝わっています。また、神社の脇にある身代池には、オイテケ伝承や龍神伝承が伝わっています。



⑤日本工業大学工業技術博物館

昭和62年に学園創立80周年記念事業の一つとして大学キャンパス内に開設され、一般にも公開されています。本館、蒸気機関車展示館、別館で構成され、展示品は大小合わせて400点以上、日本の産業発展に貢献した工作機械などを機種別、製造年代順に展示し、それらの約7割が実際に動かせる状態の動態保存であることは大きな特徴です。こうした特徴が評価され、平成20年3月には収蔵している工作機械を主体とする機器78点が国の登録有形文化財となりました。建造物以外の有形文化財は全国的に見ても数例しかなく、これだけ多くの機械が登録されたことも初めてのことでした。

開館時間は9:30~16:30(入館は16:00まで)日曜・祝日、8月中旬~下旬、年末年始が休館です。毎月第3 土曜日には、明治24年製の蒸気機関車が実際に動く様子を見ることができます。

⑥金剛寺

曹洞宗のお寺で、かつては白岡町にある興善寺の末 寺でした。大慈山と称し、本尊には十一面観音を祀り ます。

8月10日ごろには「観音様の灯籠まつり」が行なわれ、 参道から境内にいたるところまで両側に手作りの灯籠 が設置され、幻想的な雰囲気になります。

⑦東粂原前遺跡

大字東久米原に所在する東粂原前遺跡は、北西から南東へわずかにカーブしながら続く台地の南側縁辺部に位置します。標高は8.6mほどで、現在は宅地、田などとなっています。

発掘調査が行なわれていないため詳細は不明ですが、 表採されたものに、奈良時代の土師器片があります。

⑧宝光寺遺跡

大字西粂原に所在する宝光寺遺跡は、北に張り出した台地のほぼ中央部に位置し、台地奥部の平坦部に遺跡があります。標高は 9.8m ほどで、宝光寺の門前に位置します。現在は、宅地、畑などとなっています。

発掘調査が行なわれていないので詳細は不明ですが、 縄文時代後期の土器片が表採されています。

⑨宝光寺

曹洞宗のお寺で、かつては白岡町にある興善寺の末 寺でした。慈眼山と称し、本尊には地蔵菩薩を祀ります。 一説には天文元年(1532)に創立されたとされます。

歴代の住持の中の円宅という人に関係する筆子塔があり、寺子屋を開いていた事がわかります。

⑩大聖院

(コース No.1 の掲載文参照)

①東粂原鷲宮神社

(コース No.1 の掲載文参照)

13地蔵堂

本尊は郷地蔵といい、子育て地蔵とも 称されています。

縁日は7月24日で、この祭礼は地蔵様の灯籠と呼ばれています。堂の前の道



路の両方向に絵を描いた紙を貼った灯籠が $20 \sim 30$ 個 ほどが等間隔に設置され、現在では同時に地域のお祭 りも行なわれています。

このとき、堂内ではろうそくがたくさん立てられ、できる限り短くなるまで火がともされます。短くなったろうそくは火が消されたのちに半紙に包まれ、安産のお守りとして参拝者に配られます。お産の時にこのろうそくに火をともすと、燃え尽きるまでに出産できるとされました。赤ちゃんが無事に生まれると、翌年の縁日の際に再び参拝をし、無事に生まれたお礼を告げるそうです。

⑭伝・鎌倉街道

(コース No.1 の掲載文参照)

15長福寺

曹洞宗の寺で、かつては白岡町の興善寺の末寺でした。山号は桃源山と称し、本尊は正観音を祀ります。

一説には江戸時代の明和元年 (1764)9 月の創建であると伝わっています。以前の本堂は、近くの蚕室になっていた建物を昭和 16 年に移築したものでしたが、平成4年に現在の本堂が新たに建てられました。本堂裏手の歴代住職の墓石群の中には、寺の創立以前の宝篋印塔があります。また、境内には二十八貫目と刻まれた力石も置かれています。



16東武鉄道煉瓦橋台

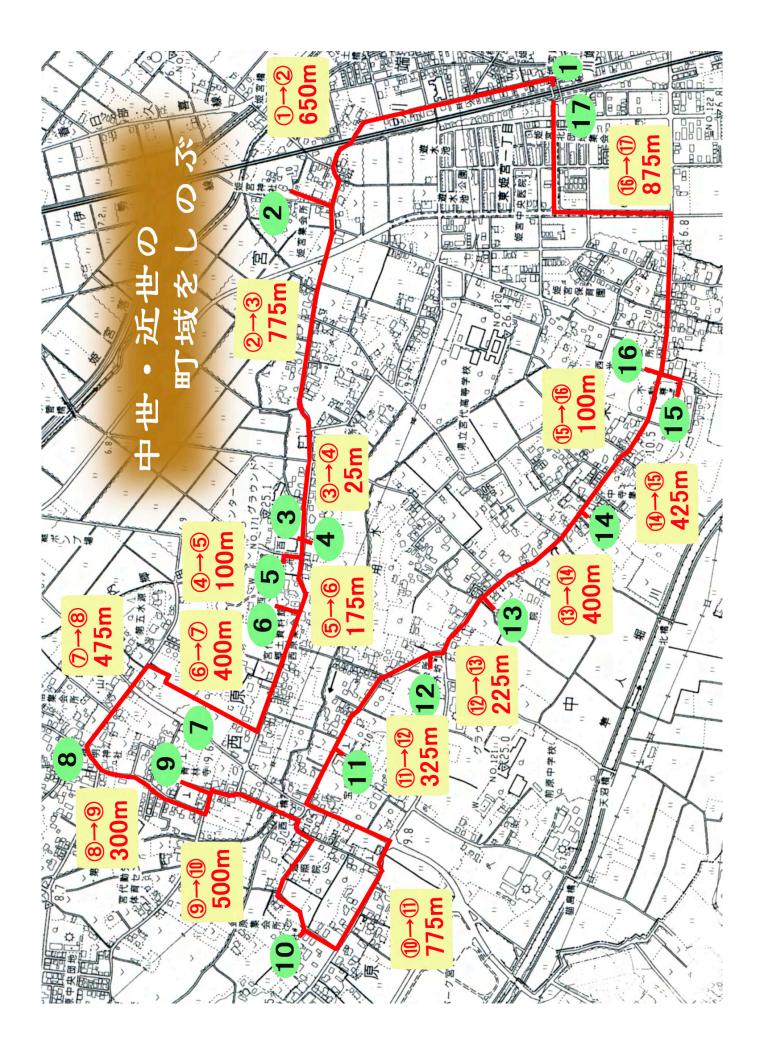
明治31年(1898)に東武鉄道の工事が始まった時に、河川や用水に掛けられた鉄道橋の橋台や橋脚には煉瓦が多く使われました。宮代町域においても、姫宮落川や笠原沼落川、あるいは備前堀川や備前前掘川などに掛けられた鉄道橋の橋台には煉瓦が使われました。線路を含めた鉄道橋そのものは改修されていますが、橋台は改修されていないようなので、現在でも見ることができます。煉瓦橋台は、町域に全部で5カ所あります。

⑪須賀遺跡

大字須賀に所在する須賀遺跡は、古利根川が遺跡の 南東約 200m の所を流れ、その右岸に位置します。近 くには鎌倉街道中道が通っています。

昭和62年度に行なわれた試掘で、ローム層のすぐ上の黒色土の中から縄文時代前期、同後期の土器が確認され、黒色土の上の粘土層からは古墳時代から奈良時代の土器が確認されました。

18和戸駅



7. 中世・近世の町域をしのぶ

総距離数約 6.5km のコースです。姫宮駅に始まり姫宮駅に終わる、17 カ所をつなぐコースとなっています。17 カ所の内、文化財案内板が設置されているのは、姫宮神社、旧・百間村役場跡、地蔵院、青林寺、宝生院五社神社、西光院の 6 カ所です。

①姬宮駅(西口)

(コース No.4 の掲載文参照)

②姫宮神社

姫宮神社は旧百間領の惣鎮守で、祭神は 参紀理毘売命・市杵島比売命・多岐津比売命を記って います。当社の本殿の基礎に「正徳五年四月吉日」と あり、建築様式などから見ても現在の本殿が正徳五年 (1715)頃に建てられたものであると推定されます。桓 武天皇の孫娘である宮目姫が当地で亡くなり、姫の霊 を祀ったのが神社の起こりであるとされています。

本殿と、本殿の東側に祀られている八幡社のあるところは、周辺から 2m ほど小高くなっています。以前、 電輪片が出土したことから古墳であると推定され、本殿の下と八幡社の下それぞれが独立した円墳であると推定されていますが、両方が合わさり前方後方墳である可能性も残されています。周辺も含めて古墳と推定される部分については詳細な調査がまだ行なわれていないので、具体的な内容は不明です。

③町立百間小学校

明治6年(1873)5月15日、西光院を校舎として開校した百間小学校は、当初の校名を進修学校といいました。同8年には宝生院に校舎を移転しました。同19年4月には、小学校の改正に伴い校名が改められました。 現在の場所に校舎が建設されたのは明治43年のことで、3月28日に埼玉県知事を招待し、校舎落成の式典が行なわれました。

現在の校歌は昭和43年に制定されたものですが、戦前までは、大正6年に認可を受けた、島村盛助作詞・

補見恩三郎作曲 の校歌が歌われ ていました。



④旧·百間村役場跡

明治22年(1889)、百間村、百間西原組、百間金谷原組、 百間東村、百間中村、百間中島村、蓮谷村が合併し新 しく百間村が誕生しました。当初は青林寺にその役場 がおかれていましたが、執務上不便をきたしたことか ら大正14年(1925)にこの場所へ庁舎が新築され、12 月28日に落成式典が行なわれました。

当時の建物は木造二階建で、玄関が道路に面して付けられ、1階に事務室や宿直室が、2階に会議室が配置されました。

その後、昭和30年7月に須賀村との合併で宮代町が誕生した後も、5年後に中央3丁目に庁舎が新築移転されるまで役場庁舎として使用されました。また、昭和44年4月から平成15年9月までは、ここに町立の西原保育園が置かれました。



⑤地蔵院

新義真言宗智山派のお寺で、本尊には勝軍地蔵を祀 ります。

当院には平安時代末期から鎌倉時代初期に造られた と推測される阿弥陀如来坐像がのこされ、町指定文化 財となっています。

新四国八十八ヶ所の第86番札所であり、ご詠歌は「ろくどうのうけてのてらに まふでして ミ> にやのこるかねのひとこゑ」です。

⑥宮代町郷土資料館

西原自然の森の歴史ゾーンとして、郷土資料館がオープンしたのは平成5年11月13日のことでした。

敷地内には、宮代町初代町長・斎藤甲馬の生家である旧齋藤家住宅が附属屋と共に保存され、また江戸時代後期に建てられたと推定される旧加藤家住宅や、明治44年に建てられた旧百間小学校校舎の一部である旧進修館が復原移築されています。

資料館の敷地は地蔵院遺跡という遺跡で、この遺跡から発掘された住居跡をモデルに、縄文時代の復元住居も建てられており、特別展や企画展と合わせて見学すれば、宮代町の歴史を体感することができます。



⑦伝承旗本服部氏屋敷跡遺跡

字西原に所在する伝承旗本服部氏屋敷跡遺跡は、字 姫宮から字西原に続く細長い台地上の奥部に位置します。標高は約9.3mで、宅地や畑などとなっています。

平成 12~15年度にかけて5回行なわれた発掘調査によって、それまで伝承だけであった旗本服部氏の屋敷の位置について、本遺跡がその可能性のあることが推察できるようになりました。

⑧神明神社

当社を祀ったとされる松永源太左衛門一族は、元和年中(1615~1624)にこの辺りに居を定めたとの伝承があります。当社は元々は松永坊という黄檗宗の僧坊が管理をする神社でした。祭神は大日孁貴命で、古くから五穀豊穣・無病息災・商売繁盛の神としてあがめられています。

近くには宿集会所がありますが、この場所には昭和40年代の始め頃まで「松永庵」あるいは「寮」と呼ばれた建物が存在していました。この集会所の東側付近は今も「源太山」と呼ばれ、かつて源太左衛門の屋敷があった場所でした。



⑨青林寺

新義真言宗智山派のお寺で、本尊は不動明王を祀ります。開基創立年代や由緒は不明ですが、「昔は山崎にあったが、火災にあったので現在地に移転した」ともいわれています。南北朝期や室町時代の石造物が遺されています。

寺の前を通る道は直角に折れ、昔からの古道といわれています。また、折原家文書(町指定文化財)にある「百間村絵図」には、「森川下総守御知行所真言宗青林寺朱印地」と表記されています。

新四国八十八ヶ所の第83番札所であり、ご詠歌は「なにしおふはなにこころののこるらんそでのかほりハのちのよのため」です。

⑩金原稲荷神社 (保食社)

神社が所蔵している古文書の「正一位稲荷大明神安鎮之事」によると、安永4年(1780)9月に伏見稲荷を勧請したとあります。祭神は倉稲魂命を祀ります。境内にある金山大神社は明治41年(1908)にここに移されたものですが、金原地内にあったとされる「カジヤシキ」の神様であると伝わります。「カジヤシキ」に居住していた人が移住した先が現在の川口市で、そこで鋳物を広めたという伝承は大変興味深いものです。

⑪宝生院

新義真言宗智山派のお寺です。姫宮山と称し、本尊には不動明王を祀ります。境内地には釈迦堂があり、釈迦如来を祀っています。本堂は明治時代に小学校校舎の一部として使用されました。また、釈迦堂の脇には町指定文化財(天然記念物)で樹齢400年を超える大イチョウがあります。

新四国八十八ヶ所の第85番札所であり、ご詠歌は「いさしらずこころにとへハいかゞセんおもふあふセのはなをたふけて」です。

12神外坊

新義真言宗智山派に属し、本尊には不動明王を祀ります。一説によるとこの神外坊付近は、中世西光院の総門があった場所であるといわれています。つまり中世西光院敷地の西端となり、ここから西光院の方に向かう道路の両脇に、いくつもの末寺が並び、寺域を構成していたと考えられています。

敷地内にある石造物の中には成田講にまつわるものがありますが、これは道しるべを兼ねており、くき町(久喜町)・しょうぶ(菖蒲)、ぢをんし(慈恩寺)、こうのす(鴻巣)の地名が見られます。

このあたりは「中遺跡」と呼ばれる遺跡となっています。

③弥勒院

新義真言宗智山派のお寺で、本尊には不動明王を祀ります。境内地には、文政2年(1819)11月に造立された「新四国八七番」の標柱があります。また、庚申塔が2基あり、延宝8年(1680)と安永2年(1773)の年号が見られます。いずれも笠付角柱型の庚申塔で、年代的に古いものとなります。茅葺きのお堂としては町内唯一となりました。ご詠歌は「あらたうとのひるいのちハこゝぞかしみろくさんえのはなぞふりきて」です。

4)観音寺

新義真言宗智山派のお寺で、かつて西光院の末寺の一つでした。境内入口の両側に庚申塔、供養塔などがあり、銘文から庚申信仰の様子をうかがい知ることができます。

歴代住職の墓石の中には「筆弟中」とあるものがあり、 村人たちに読み書きなど教えていた僧侶であることが わかります。

15五社神社

百間東村の鎮守です。当社が位置する地域は、古くより西光院という古刹があったことから「寺村」とも称されていました。

神社の創立は、養老年間 (717 ~ 724) に行基が当地

に来たときであるとされています。このとき、行基の 前に熊野三山、近江日吉、白山の 5 人の翁が現れ、当 地が優れた霊場であることを告げて姿を消したことか ら、行基がこのお告げに従って西光院を建て、寺の鎮 守として祀ったことが始まりであるとされています。

元禄 12 年に始められた本殿改修の寄進により完成したものが現存する本殿で、県指定文化財となっています。本殿内部に納められた神鏡には祭神の本地仏である阿弥陀如来、不動明王、千手観音、釈迦如来、毘沙門天の像が納められており、江戸時代の信仰形態を示す貴重な資料となっています(町指定文化財)。なお、本殿は昭和 50 年に解体修理され、現在に至ります。

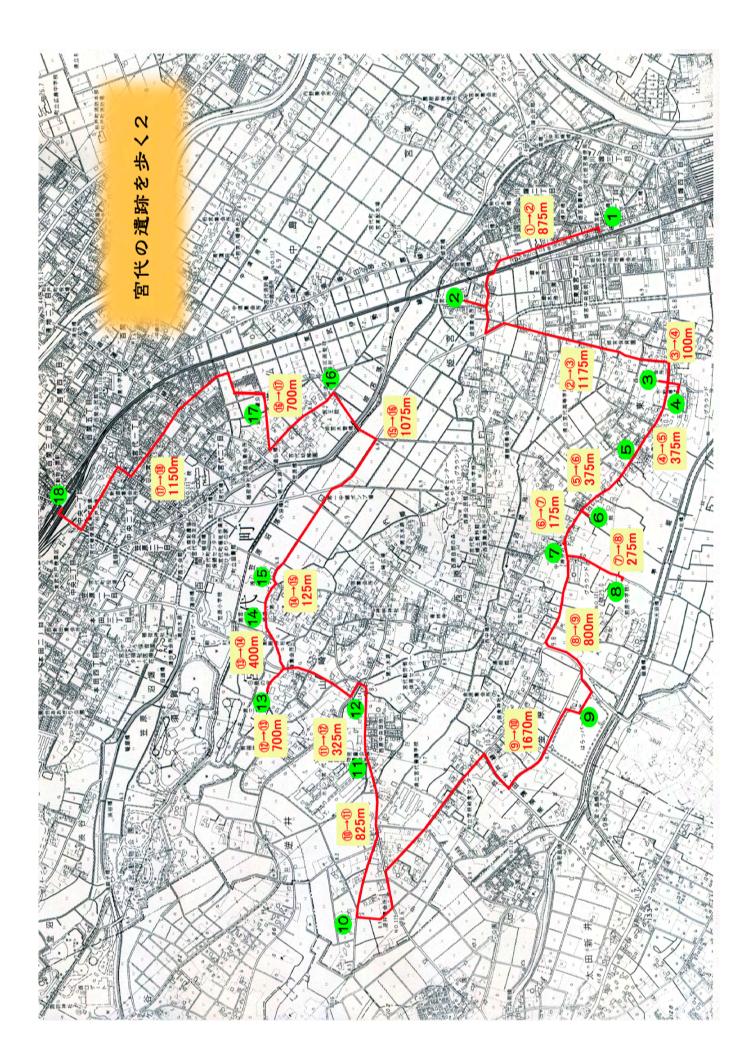
16西光院

新義真言宗智山派のお寺です。元は、醍醐三宝院の直末寺で百間山光福寺と称していました。本尊は薬師如来です。天正 19年(1591)11月に、徳川幕府から寺領 50石を与えられました。当時の境内地には、本坊、客殿、東照宮、稲荷社、土蔵、長屋、地蔵堂、準胝堂、阿弥陀堂、鐘楼堂、稲荷社、五社権現(現在の五社神社)、雷電社、弁天社、聖天社が建ち並ぶ大刹でした。特に阿弥陀堂は本堂とも称され、阿弥陀如来、観音菩薩、勢至菩薩(以上、国指定文化財阿弥陀三尊像)、不動明王、毘沙門天、脱衣婆、行基坐像があり、これらの像は西光院の草創である行基の作とされていました。残念なことに阿弥陀堂は昭和 20年代に焼失し、阿弥陀三尊像以外は建物ごと失われてしまいました。

新四国八十八ヶ所の第88番結願寺であり、ご詠歌は「まいるより くもらぬそらに ちかひして にしのかてたる つきををがミて」です。

①姬宮駅(西口)





8. 宮代の遺跡を歩く2

総距離数約 11.1km のコースです。姫宮駅に始まり東武動物公園駅に終わる、18 カ所をつなぐコースとなっています。18 カ所の内、文化財案内板が設置されているのは、姫宮神社、西光院、五社神社、前原遺跡、金原遺跡、山崎遺跡、笠原沼新田、山崎浅間神社の8カ所です。

①姬宮駅(西口)

姫宮駅は、昭和2年 (1927)9月に開設されま した。開設当時から近年 まで、駅舎は東口だけで したが、平成13年3月



に橋上化となり、東西からの利用が可能になりました。 ②姫宮神社・姫宮神社遺跡

姫宮神社は旧百間領の物類などで、祭神は を記理毘売命・市杵島比売命・多岐津比売命を祀って います。当社の本殿の基礎に「正徳五年四月吉日」と あり、建築様式などから見ても現在の本殿が正徳五年 (1715)頃に建てられたものであると推定されます。桓 武天皇の孫娘である宮目姫が当地で亡くなり、姫の霊 を祀ったのが神社の起こりであるとされています。

本殿と、本殿の東側に祀られている八幡社のあるところは、周辺から 2m ほど小高くなっています。以前、埴輪片が出土したことから古墳であると推定され、本殿の下と八幡社の下それぞれが独立した円墳であると推定されていますが、両方が合わさり前方後方墳である可能性も残されています。周辺も含めて古墳と推定される部分については詳細な調査がまだ行なわれていないので、具体的な内容は不明です。

③西光院•西光院遺跡

新義真言宗智山派のお寺です。元は、醍醐三宝院の 直末寺で百間山光福寺と称していました。本尊は薬師 如来です。天正 19年 (1591) 11月に、徳川幕府から 寺領50石を与えられました。当時の境内地には、本坊、 客殿、東照宮、稲荷社、土蔵、長屋、地蔵堂、準胝堂、 阿弥陀堂、鐘楼堂、稲荷社、五社権現(現在の五社神 社)、雷電社、弁天社、聖天社が建ち並ぶ大刹でした。 特に阿弥陀堂は本堂とも称され、阿弥陀如来、観音菩 薩、勢至菩薩(以上、国指定文化財阿弥陀三尊像)、不 動明王、毘沙門天、脱衣婆、行基坐像があり、これら の像は西光院の草創である行基の作とされていました。 残念なことに阿弥陀堂は昭和20年代に焼失し、阿弥陀 三尊像以外は建物ごと失われてしまいました。新四国 八十八ヶ所の第88番結願寺であり、ご詠歌は「まいる より くもらぬそらに ちかひして にしのかてたる つき ををがミて」です。

④五社神社

百間東村の鎮守です。当社が位置する地域は、古くより西光院という古刹があったことから「寺村」とも称されていました。

神社の創立は、養老年間 (717 ~ 724) に行基が当地 に来たときであるとされています。このとき、行基の 前に熊野三山、近江日吉、白山の 5 人の翁が現れ、当 地が優れた霊場であることを告げて姿を消したことか ら、行基がこのお告げに従って西光院を建て、寺の鎮 守として祀ったことが始まりであるとされています。

元禄12年に始められた本殿改修の寄進により完成したものが現存する本殿で、県指定文化財となっています。本殿内部に納められた神鏡には祭神の本地仏である阿弥陀如来、不動明王、千手観音、釈迦如来、毘沙門天の像が納められており、江戸時代の信仰形態を示す貴重な資料となっています(町指定文化財)。なお、本殿は昭和50年に解体修理され、現在に至ります。

⑤中寺遺跡

字東に位置し、観音寺の道路をはさんで向かい側の 辺り一帯が中寺遺跡です。標高は約10mで、畑や宅地 がほとんどとなっています。平坦な台地上に遺跡があ り、縄文時代中期、後期中葉の土器や、奈良時代の土 師器などが採集されています。

平成10年度の調査で、柱間7尺の掘立柱建物跡や大型の井戸が確認され、中世後半から近世前期の遺物が出土したことや現在の鈴木氏居宅に隣接することから、戦国武将の鈴木雅楽助の屋敷との関係がうかがわれます。

6弥勒院

新義真言宗智山派のお寺で、本尊には不動明王を祀ります。境内地には、文政2年(1819)11月に造立された「新四国八七番」の標柱があります。また、庚申塔が2基あり、延宝8年(1680)と安永2年(1773)の年号が見られます。いずれも笠付角柱型の庚申塔で、年代的に古いものとなります。茅葺きのお堂としては町内唯一となりました。ご詠歌は「あらたうとのひるいのちハこゝぞかしみろくさんえのはなぞふりきて」です。

⑦神外坊・中遺跡

新義真言宗智山派に属し、本尊には不動明王を祀ります。一説によるとこの神外坊付近は、中世西光院の総門があった場所であるといわれています。つまり中世西光院敷地の西端となり、ここから西光院の方に向かう道路の両脇に、いくつもの末寺が並び、寺域を構成していたと考えられています。

敷地内にある石造物の中には成田講にまつわるものがありますが、これは道しるべを兼ねており、くき町(久喜町)・しょうぶ(菖蒲)、ぢをんし(慈恩寺)、こうのす(鴻巣)の地名が見られます。

このあたりは「中遺跡」と呼ばれる遺跡となっています。

⑧前原中学校·前原遺跡

字中に所在 する前原遺跡 は、周囲を浸 食谷に囲まれ た舌状台地先 端部付近にあ り、標高8~ 9.4m あたり



に位置します。範囲内には前原中学校、工場、畑などがあります。昭和55年度に発掘調査が行なわれ、現在は前原中学校の校庭となっている場所が調査されました。先土器時代の石器や、縄文時代草創期から後期に至る遺構・遺物が発見されました。特に、縄文時代早期8,000年前の住居跡7軒は、県内でも古い集落として注目されています。また、ここで発見された、微隆起線文土器は縄文時代草創期でも古い段階の土器として大変珍しく、町指定文化財になりました。

⑨金原遺跡

字金原に位置する金原遺跡は、大宮台地慈恩寺支台の一部で、北西から南東にむかって島状に張り出した台地上に位置します。標高は8.7m前後で、半分近くの面積がはらっパークの敷地となっています。

平成8年度から11年度にかけて発掘調査が行なわれ、先土器時代(約20,000年前)から縄文時代後期(約3,500年前)にかけての遺構や遺物が多数確認されました。特に先土器時代の遺構では、11カ所の石器製作跡や礫群8基が確認されました。また、この遺跡の主体となる遺構が縄文時代後期初頭のものであり、住居跡17軒が確認されました。これは、当時の集落のあり方などを考察する上で、重要な遺構となります。



⑩逆井遺跡

字逆井に所在する逆井遺跡は、台地の北側に位置しています。標高は 9.2m ほどで、周辺は逆井新田の田や畑として開発されました。現在は畑や宅地、屋敷林などになっています。ほ場整備の関係で現在は白岡町域になりましたが、平成 7年の調査時には宮代町域だった所で発掘調査が行われ、町指定文化財にもなった先土器時代の石器である細石刃と細石刃核が発見されました。

⑪山崎山遺跡

字山崎地内にある山崎山遺跡は、北側に江戸時代に 開発された笠原沼新田と、西側には同じく江戸時代に 開発された逆井新田と呼ばれる低湿地が広がっていま す。かつては第六天山と呼ばれた林でしたが、現在は 工場敷地や林などとなっています。標高は10m前後で、 昭和57年に行なわれた工場の増築に伴う発掘が最初の 調査となりました。また、同じく工場の増築のため平 成2年度に行なわれた発掘調査においては、古墳時代 の鍛冶工房などの遺構・遺物が発掘されました。

この鍛冶工房の遺構は、発見当時は東日本最古のものであり、現在でも埼玉県最古のものとして貴重な遺構です。郷土資料館において、発掘当時の遺構の様子が復元展示されています。

⑫山崎南遺跡

字山崎に所在する山崎南遺跡は、西に山崎山遺跡、北に山崎遺跡があり、山崎遺跡との間に入る小さな谷の、谷頭付近に遺跡があります。標高は約10mで、数回にわたり調査が行われています。縄文時代前期~後期、古墳時代の遺物が見つかっていますが、特に縄文時代後期のものが主体をしめています。

13山崎遺跡

字山崎に所在するこの山崎遺跡は、南東から北西に張り出した小さな舌状台地の基部付近に位置し、東に大きく広がりを見せた遺跡です。付近には松林や雑木林が点在し、町内でも最もよく武蔵の面影をのこしている場所といえます。標高は9.9m前後で、埼玉県選定重要遺跡にとなっています。縄文時代早期~前期、古墳時代の土器などが採集されています。



⑭新しい村・笠原沼のホッツケ

平成13年9月、山崎山の雑木林や水田、畑を舞台として、環境との共生や循環型社会の実現を目指した政策「農のあるまちづくり」の事業の一環として、新しい村がオープンしました。敷地内には、メイド・イン・宮代の産物を扱う直売所や、緑のトラスト保全第5号地の雑木林、江戸時代の水田開発の様子を今に伝えるホッツケ(堀上田)など、特徴的な施設があります。

新しい村と、すぐ脇の東武動物公園がある一帯は、 かつては江戸時代に開発された笠原沼新田が広がって いました。

15山崎浅間神社

祭神は木花開耶姫命で、仏教の大日如来と一体とし

「浅間大菩薩」と呼び富士山の神霊としたことから、富士信仰の神社として建立されました。以前には赤松の大木が多数あったことから、地元では「赤松浅間」とも称されています。

毎年7月1日には初山がおこなわれています。





16道仏遺跡

字道仏に所在する道仏遺跡は、大宮台地の東側縁辺部に位置し、舌状台地先端部に立地しています。標高は8mほどで、町域でも比較的低い台地に立地し、現在は宅地、畑、屋敷林などになっています。

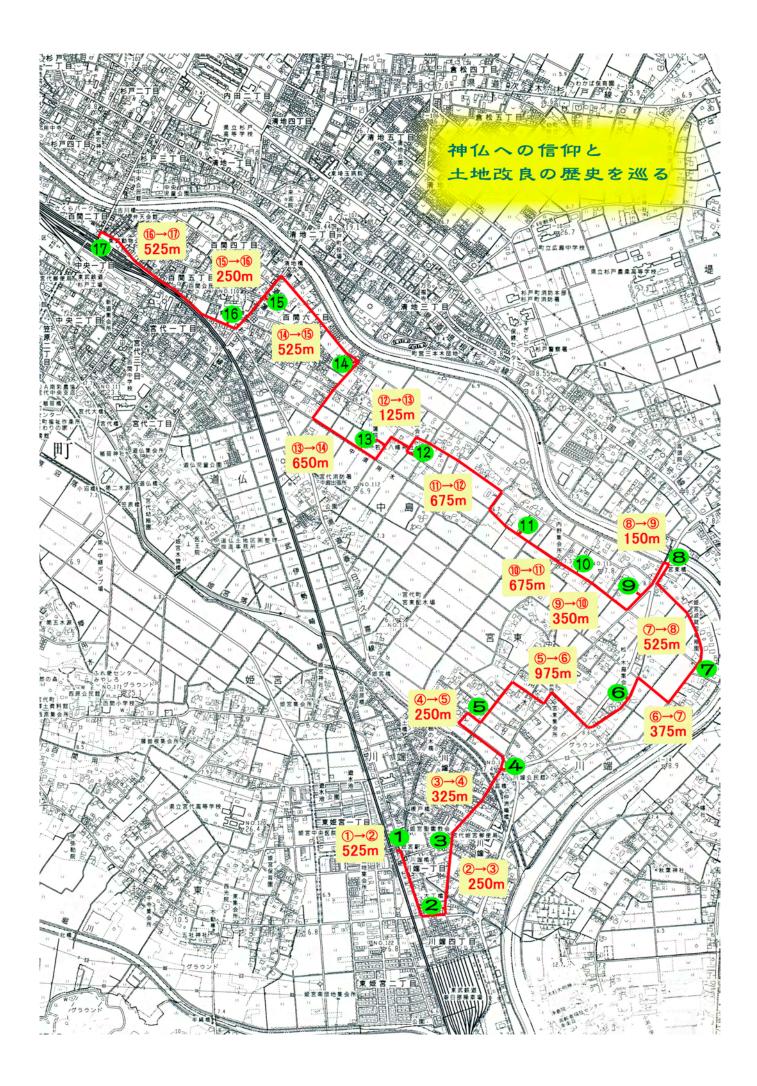
平成9年度、平成20年度におこなわれた発掘調査では、古墳時代後期の集落が確認されています。同時期の古墳群として、低地をはさんだ南東側に姫宮神社古墳が存在しています。

⑪道仏北遺跡

字道仏に所在する道仏北遺跡は、大宮台地の東側縁辺部に位置し、標高8mほどの舌状台地の先端部付近にあります。現在は宅地、田、畑などになっています。平成15~20年度において数回に渡り調査が行われました。古利根川の右岸に位置することから、氾濫などの影響を受けていたようで、粘性が強くとても硬い土に覆われていました。合わせて32軒の住居跡が確認されましたが、特に縄文時代早期条痕文期の住居跡10軒は付近では数少ない時期のものとして注目されています。

また展示している獣面把手土器は、平成20年度の調査で確認された土器であり、宮代町域では初めて確認されました。

18東武動物公園駅(西口)



9. 神仏への信仰と土地改良の歴史を巡る

総距離数約 7.2km のコースです。姫宮駅に始まり東武動物公園駅に終わる、17 カ所をつなぐコースとなっています。17 カ所の内、文化財案内板が設置されているのは、若宮八幡社、川島庚申塔群の 2 カ所です。

①姬宮駅(東口)

(コース No.4 の掲載文参照)

②庚申神社

(コース No.4 の掲載文参照)

③道しるべ

(コース No.4 の掲載文参照)

④土地改良区完成記念碑ほか

川端公民館の向かいにあたるここは、道路が二股に分かれるところに5基の石造物が建てられています。5基のうち4基は供養塔で、柚木(柚の木)、内野といった現在の宮東地区にあたる地名が見られます。もう1基は昭和55年11月に完了した宮東地区の土地改良区事業の記念碑となっています。

⑤浄林寺

かつては浄土宗のお寺で、さいたま市岩槻区にある 浄国寺の末寺でした。本尊には阿弥陀如来を祀ってい ました。境内地入口付近には、享保の年号の記された 庚申塔や複数の供養塔が建てられています。

⑥松の木島集会所前

集会所の入口に向かって右側に、享保 15年(1730)の年号をもつ庚申塔をはじめとした石造物が建っています。町域では数が少ない疱瘡神宮があり、はやり病に対する当時の人々の信仰の様子がうかがえます。

⑦土地開発記念碑

昭和28年1月に建てられたこの記念碑は、松の木島 地区の田地灌漑事業における記念碑です。昭和26年1 月に開始、翌年6月に完了、約一年半の事業でした。

⑧宮東橋・矢島の渡し

(コース No.4 の掲載文参照)



⑨土地開発記念碑

昭和30年5月竣工と記されたこの記念碑は、内野地区(現在の宮東地区の一部)における陸田化事業の記念碑です。村長の名前として斎藤甲馬氏の名前が見られますが、宮代町の誕生がこの年の7月のことなので、合併直前の時期に建てられたという点に、興味がひかれます。

⑩馬頭観世音

個人のお宅の敷地の入口と、その脇の道路の際に建っている馬頭観音 2 体です。道路脇に建っているものは天明6年(1786)6月の銘が、もう1 体は文化5年(1808)12月の銘を見ることができます。特に、天明6年の銘の馬頭観音には、「南かすかべ西すぎとわと道(杉戸・和戸道)」と記され、道しるべとしても機能していることがわかります。





① 榎榎值改良区竣工記念碑

昭和61年3月に完了した耕地整理の記念碑です。榎地区は現在の宮東地区の一部で、関係面積は45.5haでした。



迎若宮八幡社

北側を西から東に流れる大落古利根川により形成された自然堤防上に位置するこの神社は、江戸時代は西光院持として、明治時代には中島村の村社として祀られてきました。祭神に誉田別命を祀ります。境内神社として天満神社(祭神菅原道真公)と稲荷神社(祭神育がのみやまのみこと 倉稲魂命)があり、祠の中にはそれぞれ石祠が祀られています。

境内地には青面金剛、3基の庚申塔、力石などがあります。庚申塔にはそれぞれ宝永4年(1707)、文化3年(1806)、安政2年(1855)の年号が見られます。また、力石には元文5年(1740)3月と刻まれ、三十三貫目とその重さも刻まれています。

13青蓮院

新義真言宗智山派にのお寺です。江戸時代には寺子屋が置かれ、明治時代になり小学校が設けられると、大正6年(1917)4月1日に廃止されるまで、若宮青蓮院分教場として使用されました。



迎土地改良区記念碑

昭和31年に古利根川拡幅工事が始まったのをきっかけとして、この土地改良区事業がはじまりました。面積19haの細長い地域でしたが、土地の起伏の激しいところでは3mを越える所もあり、拡幅時にでる土を使用してのほ場整備事業であったそうです。

⑤川島庚申塔群

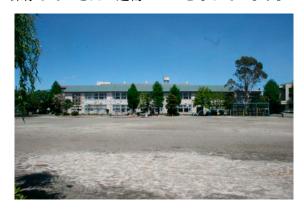
宮代町内でも比較的古い庚申塔群です。庚申塔が5基、常夜塔2基が所在します。町内で最も古い庚申塔が含まれた庚申塔群であり、それは延宝4年(1676)のもので、舟形をしていて、覆屋の中にあります。残り4基の庚申塔の造立年号から推測するに、川島庚申講としての組織が150年間に渡り続き、地区内の全世帯が加入して運営されていた様子がうかがえます。

平成19年4月に町指定文化財になりました。

16宮代町立東小学校

昭和30年11月23日に百間小学校川島分教場として落成したのが、現在の東小学校木造校舎です。翌々年の33年に百間小学校から独立し、東小学校と改称されました。

サッシなどは取り替えられていますが、建物自体は 当時の面影を残し、県内でも数少ない木造校舎として、 大切に保存していきたい建物の一つとなっています。



(『東武動物公園駅(東口) コースの終着点です。



本企画展で紹介したコースの中には、個人の所有地など住民の生活空間が多く含まれています。見学の際にはお住まいになっている方に迷惑がかからないよう、マナーを守り、十分に配慮しながら見学しましょう

宮代町郷土資料館